

大阪市長発言「学テ結果で教員評価」

大阪府の松井一郎知事とともに、大阪市の吉村洋文市長の発言にも首をかしげることが多い。大阪の「維新政治」なるものを象徴するものだ。

標題は毎日新聞 8 月 17 日夕刊。リードから—全国学力テストの結果を、教員の手当や人事評価に反映させるとした大阪市の吉村洋文市長の提案が波紋を広げている。平均正答率が 20 政令市中で最下位に低迷、「結果に対し、責任を負う制度にすべきだ」と訴えるが、専門家や市民は「あまりに短絡的」と猛反発。撤回を求める電子署名には、約 1 万 5300 筆（17 日現在）が集まった。

学テの結果に応じて教員の手当や、学校に配分する予算を増減させる提案があったのは今月 2 日。林芳正文部科学相は翌 3 日の記者会見で「学テで把握できるのは学力や教育活動の一面。適切に検討を」と慎重な対応を求め、ネット上でも即座に議論が巻き起こった。

吉村市長は 16 日の会見で「自治体の裁量だ」と反論。来年、最下位を脱せなければ、自身の来夏のボーナスを返上すると述べたが、議論は続く。

「学校は人を育てるところ。点数を稼ぐところではない」。教育コーディネーターの武田緑さん（32）=大阪市=が 3 日からネット上で署名活動を始めると市民らから怒りや悲しみのコメントが寄せられた。武田さんは「今の学校文化には、変えなければいけない点もある」と指摘するが、提案は、武田さんが目指す「主体的に学び、対話のある民主的な学校」とはかけ離れていた。

「夜回り先生」で知られる水谷修・花園大客員教授は「大阪の子の学力の背景に家庭や貧困の問題があるのは明白だ。十分な対策を講じてきたと言うなら、その成果が上がないということだ」と怒りをあらわにし、市長との公開討論も求める。

ここ数年、大阪の教育現場は矢継ぎ早に打ち出される首長の政治方針や改革の波に翻弄されてきた。「子どもの学力や人間力は、点数のように見える形で表れる成果より、見えない力の方がずっと大きい。成績を上げたい市長のメンツなのか」。ある市立小校長はそう話し、教員採用試験への影響も案じた。

6 月 16 日の「カジノ万博」講演会でお会いした毎日新聞の林由紀子記者は、「学力と家庭の経済力との相関関係は以前から指摘され、大阪市も意識して取り組んでいる」と指摘する。市長のメンツなどより、こうした背景にもっと光を当てることが求められる。

(2018 年 8 月 27 日)

